

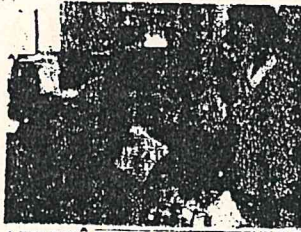


平成九年春卒業した一期生によるボランティア組織「神戸市シルバーカレッジ (KSC) 社会還元センター」(愛称は輪・和をイメージしてグループ「わ」)の活動がスタートした。在校生、とくに卒業を目前にする二期生の皆さんに、グループ「わ」の発足の経緯、目的、組織および活動状況などを知って頂き、理解と協力をお願いしたい。

3年間の学び活用

既に入社特養訪問活動も

神戸シルバーカレッジ卒業1期生 ボランティア組織「わ」結成



神戸新聞平成9年11月24日付紙面の紹介記事

神戸市シルバーカレッジ卒業生によるボランティア組織「わ」が、平成九年春に結成された。この組織は、卒業生が社会に還元し、社会に貢献することを目的として、活動を開始した。組織の発足には、卒業生だけでなく、在校生や関係者も協力している。活動内容は、高齢者への訪問活動、地域清掃、学習支援など多岐にわたる。今後も、卒業生が社会に貢献し、社会に還元することを目指している。

大震災を機にカレッジを核として「しあわせの村」内外で繰り広げられるようになったボランティア活動や、学習、クラブ活動を通じて進んだネットワークを卒業後どのように継続するか。そんな課題が日ごとに重くなっていた八年前、川崎重工創立百周年記念事業の一つとして神戸市に高齢者対策費として一億円の寄付申し出があった。これによって(財)こうべ市民福祉振興協会内に『川重シルバー活動基金』が創設され、卒業後の活動について模索していた一期生およびカレッジに対し、精神的にも経済的にも活動を具体化するはずみを与えられた。

卒業式直前の説明会と意見交換会を経て四月から十四人の設立準備委員が組織の骨格や活動計画を検討、七月二十二日「KSC社会還元センター」設立総会開催にこぎつけた。卒業生三百四十二人の74%、二百五十三人が参加した。以後、運営委員会により細部を検討、決定しながら十月に入って県、市、各区の福祉関係ほかを訪問してグループ「わ」の設立趣旨説明と支援要請をおこなっている。

カレッジで学び、体験したものを地域社会に還元するため、現在百五十人の会員がカレッジ内の事務局を足場に六部会に分かれて活動の第一歩を踏み出した。

- ① 講師や指導者の派遣
- ② 生活文化の伝承
- ③ 地域活動の企画、参加
- ④ 外国人の支援
- ⑤ 調査、研究
- ⑥ 広報、出版

組織の運営は運営委員会を中心とするセンターで行い、各部の独自性を尊重しながらグループ「わ」の有機的な活動に結びつけることを原則としている。従って十年夏、カレッジを中心に開催される「全国トシボ市民サミット」には、センター機能をフルに活用して対応する。

このほか中央区の生活復興相談員への推薦や灘区の特別養護老人ホームへの訪問活動、しあわせの村広報活動への協力などの外部支援と並行して部会員の希望アンケートの実施やリーダーの選出など態勢固めを進めている。

「わ」の一部ではすでに在校生と共に活動しているところがあり、今後地域社会からの要請が増加し、範囲の広がりが予想されるだけに、現役・OBの結びつきは強くなる。 「わ」の組織を強化し多様な人材を組み込んで内容を充実していくうえで、二期生の加入を待ち望んでいる。

〔グループ「わ」代表・福原克巳〕



発足早々の私たちが組織を挙げて「トンボサミット」への取り組みを始めようとしていることについて話してみます。

サミットのテーマ「人と自然が共生するまちをめざして」は、阪神大震災や須磨の小学生殺傷事件を通じ浮かび上がった共通のキーワード「自然」に、私たちがどう向き合うかを考えよう、というものです。自然の象徴として大昔から広く親しまれているトンボを取り上げ、市民グループの間で一年半程前から準備が進められていました。トンボは環境の指標といわれ、トンボに代表される生きものが住みやすいところは、人間にとっても暮らしやすいまち、と言えます。



▲シンボルマーク

場所 神戸市シルバーカレッジ

平成10年
8月22日(土)
23日(日)

第9回全国トンボ市民サミット神戸大会

トンボサミットとは？

スとして、活動の幅が広がり、深さも増えうとしているのです。

実行委員会の構成は環境問題を手がける市民団体が主体で、まさに市民による手づくりサミットです。『わ』もその一員です。実行委員長の中瀬勲氏は姫路工大教授、兵庫県立「人と自然の博物館」環境計画部長という肩書よりもシルバーカレッジ講師としてのほうが親しみが持てると思います。

このような背景からトンボサミットは『わ』やカレッジが社会的に認知される

大きな舞台ととらえ、以後に与える影響も考え合わせ『わ』が全力を挙げて取り組まなければならぬテーマに掲げ、一月二十日、拡大運営委員会を開いて検討しました。その内容はつぎの機会にご報告しますが、カレッジ事務局・在校生・しあわせの村・サミット実行委と連携しながら『わ』としてプロジェクトチームをつくり対応する方針です。

①展示・企画、②設営・運営、③記念誌「しあわせの村の自然」作成のチームから成り、すでに記念誌チームは編集委員会を設置、調査活動に入っています。卒業を控えた二期生は勿論、三期生以下の方々も、このサミットへのご理解とご協力をお願いします次第です。【小島】

「しあわせの村のこんにやく」

しあわせの村葉草園でこんにやくを植えてから七年、昨年末初めてこんにやく玉を収穫し、製造から料理までシルバーカレッジの食文化で実際に勉強することになりました。これを機にこんにやくをもっとPRしよう、しあわせの村の植物などに親しんでもらおうと『わ』の広報部会では、村の委嘱を受けてガイドづくりを始めます。三月発行予定。



福祉ボランティア部会が発足

早いものです。グループ『わ』が生じて四カ月が経過しましたが、少しは『わ』について理解して頂けたでしょうか。基本的なコンセプトは、皆様の豊富な社会経験や、カレッジで習得された知識や技術などを社会に還元しようというもので、『わ』はそれを表現させるための組織なのです。

幸い『わ』は時代のニーズと共鳴したのでしよう。各地域からさまざまな反響がありました。設立の意義を再認識するとともに、この力強いエールに意を強くしたものです。

もちろん運営側も試行錯誤を繰り返しながら、少しでも理想に近づくよう研鑽しています。その一つが、これからお話しする福祉関連の活動であるわけです。わが国は先進国でも例を見ないスピードで高齢化社会を迎えています。健常高齢者も社会的に弱い立場の人々を支えなければならぬのが現実の姿です。

当初『わ』の事業内容を検討したときも、このことを論議しなかったわけではありません。しかし福祉活動は高齢者にとって体力、リスク、あるいは継続性の点で心配があります。この分野はやはり若い方にお任せし、高齢者は高齢者として経験・ノウハウを活かす方向で活動すべきではないかということから、現行のようなプランニングになったのです。

その方向性は当を得ていたように思います。現行それぞれの分野で高い評価を受けていることからそう言えます。

ところが、予測はしていたのですが、福祉ボランティアに対する要請が各地域から舞い込むようになりました。高齢者には適していないからと言って済ませることは『わ』の精神からも相応しいことではありません。多少問題があることは覚悟で取り組んでみてはどうか、という声が起こってきました。

運営委員会でも意見が別れましたが、結局、バーが高くても越えなければならぬだろうということになり、気を引き締めてゴーサインが出されたのです。窓口についても、どのグループに属するのがベターか討議を重ねました。結論は、迅速に対応するためにはやはり専任の部会を設立したほうがよいというもの

でした。そして七番目の部会（Gグループ）として福祉ボランティア部会が発足することになったのです。

五十名のメンバーが賛同し、登録してくれました。二月三日には発足を開き次のとおりの編成で活動することを決めました。

①カーボランティア

（リーダーは河野寛・岡 雄の二人）

②施設訪問

③通院介助

④買い物代行

⑤その他

（当面は合同で活動し、リーダーは仲田稔・後藤慶子の二人）

すでに実績も上げています。相手方は評価もまずまずです。しかしこのままでは受け身です。やるからにはもっと前向きで取り組みたいと考えます。つまり要請を待つだけでなく、積極的に情報を集め、その中から『わ』に適した事業を選んで実施する方向に転換したいのです。そのため各地区に専任の窓口を設け、全域の情報を集める体制を作ります。

二期生の皆様！ぜひ私達と一歩前に踏み出しましょう。お待ちしています。

部会の名称も、もっと親しみのもてるものに改めたいと思います。よいネーミングを提案して頂ければ幸いです。

【Gグループ・胤艸武宏】

で二曲歌い市庁舎を辞去する。

今日の訪問先ローラファーガソンのリハビリセンターは、事故などの障害者をジム、プールで機能回復の訓練する施設で、軽症者の木工工房も見学した。午後三時、演奏会開始。タウランガの時と同じに進み、最後の曲「いまこそ別れの時：」と歌いはじまると聴衆の目から涙が溢れだし、みんな涙また涙で歌声もとぎれがちとなった。

中央には Kobe Silver College とありその左右にキウイを配した凶案の手作りの板額を贈られた。不自由な手で何日もかけて作られたに違いない。その厚情に涙する。

四月三日（金）午後七時半、全員無事関空に帰着した。本州縦断に近い距離を移動しながら三回の演奏スケジュールは少しきつかった。毎日が感動の連続で、コーラスをやっている良かったというのが全員の感想であった。

感動は人の感性を錬磨する、これからもコーラスを続け新たな感動を味わいたい。福祉、国際、環境、芸術の各コースの学生がそれぞれの角度から物を見、考えるという貴重な体験をした。

今回のコーロKSC演奏旅行を支援して下さい。下さった今井学長はじめ事務局の方々。

企画・実行に全力投球された守屋先生、現地でいろいろとお世話してくださったニーナ先生、同行し素晴らしいフルート演奏の門脇さん、ピアノ演奏の野口さん、その他書ききれない数多くの方々、深く感謝の意を捧げたい。



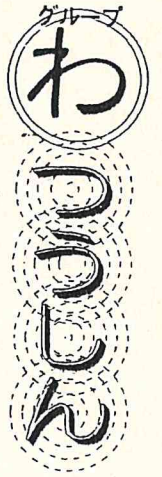
♪
♪
♪
♪
♪
♪

◇グループ「わ」の各部会の担当内容活動状況を、今号から順次紹介したい。

A部会（講師、指導者派遣部会）わがカレッジにはOB、在校生を合わせ学識経験を持つ人が沢山おられる。この貴重な能力を役立てるのがこの部会。また指導者を新しく養成することも使命としている。

すでに活動は始まっていて、社会福祉施設などへたびたび講師を派遣した。例えばロングステージ灘デイサービスには昨年十一月頃から今までの約六ヶ月間に折り紙や習字、体操歌の指導、フラワーアレンジメントなどと、それぞれ数回づつ派遣をしている。また保養センターひよどりのグリーンスクール趣味講座では「旅の話」「絵手紙」「煎茶指導」など大変に喜ばれている。

今後もロングステージ灘へそれぞれのテーマで月一・二回出向する。保養センターひよどりへも絵手紙・煎茶・木工の指導を続ける予定。



今月はB部会の活動実績の紹介です。

このグループのテーマは「懐かしい昔遊びの指導などから、生活文化伝承の場を演出」することです。

☆しあわせの村の行事では

▼昨年の八月三日、第七回の村まつりで昔あそびのコーナーを担当、25名の会員が参加しました。

▼同じく十月四～五日の第八回福祉健康フェアにも同様に出席しました。

▼平成十年三月十四から十五日の「野外オートキャンプフェスタ」では木の実、松ボックリ、小枝などを使ったクラフトを指導。延べ45人が参加しました。

☆村の野外活動センターあおぞらでは

▼窯場で陶芸同好会を指導しています。

▼石ころに絵を描いたり、木切れでキーホルダーを作ったり、前述の木の実クラフトや割り箸鉄砲・くるくるやじろペーなどを作る指導をしました。

そのほかA部会、C部会などと一緒にロングステージ灘でボランティア活動も行なっています。

“わ”事務局からのお知らせ

■寄付金拝領二件

①金二万円(九八・五・二二)

仮設住宅より引越された方から、

お手伝いボランティアをした「G部会グループ」の好意を謝して「がんばろう!神戸」を通じ、北区善意銀行に振り込んで頂きました。もともと無報酬が建前の「わ」ではありますが、有り難く頂戴しさらに我々の活動に役立てます。

②金一万四千元(九八・五・二二)

平成九年度総合芸術コース。三学年合同交流パーティー実行委員会殿。

いずれもご浄財を頂戴しましたことを有り難くお礼申し上げます。

■協賛金のお願い

第9回全国トンボ市民サミット神戸大会実行委員会では市民へ協賛を呼びかけております。大会を支援している“わ”では会員だけでなく在学生の皆さんにも協賛をお願いすることになりました。

個人として一口五千円の協賛金拠出をお願い致します。協賛頂いた方にはお礼として、神戸の身近な生きもの調査運営委員会企画・青木典司編著『神戸のトン

ボ』(市販価格千三百円)およびサミット報告書をさしあげることになっていきます。振込の方法など詳しいことは“わ”事務局にお尋ねください。

■校章ピンバッジのお求めを



大物実

お待たせして頂きました校章のピンバッジ、やっとなで上がりました。七宝のおしゃれなデザインです。“わ”事務局

でお頒けします。ぜひお求めください。価格は四百円です。

■販売物のご案内

“わ”事務局ではイラスト入りの分かりやすいパンフレット『神戸市シルバークレッジ、生涯学習機関四年間の歩み』(A4版53ページ・千円)と本館をデザインした美しいテレホンカード(50度数・千円)も取り扱っております。

これらのカレッジグッズは、グループ“わ”だけはその企画と販売が認められており、したがって他ではお求めになることができません。

“わ”の事務局は2フロビーにあり、毎週火曜と金曜に開いております。

【飯井】

わづろしん

今回はD部会（外国人支援部会）についてご紹介します。

D部会員は現在四六名（一期生二七名、二期生一九名）で次のようなグループに分かれています。

①日本人の生活習慣についての啓蒙。
②外国人支援のためのバザーなどの計画と実行。

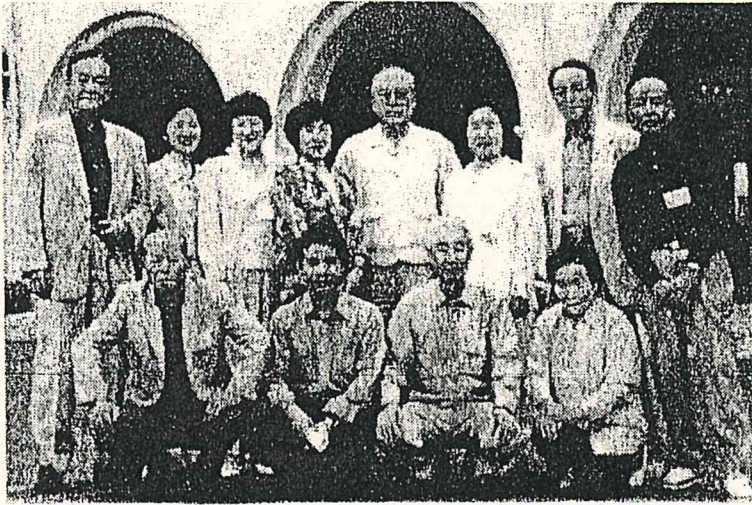
③外国人への日本語教習ボランティア。
④外国人との交流、イベント等。

紙面の都合上、全部の紹介は無理なので、ここでは「外国人との交流、イベント」グループの活動状況を説明します。

一期生の部会員はすでにベトナム難民支援の資金づくりのバザー計画や、外国人に日本語を教えるための準備をしたり、それぞれ活動をはじめています。

この四月に入会した二期生の仲間には、この外国人との交流、イベントグループの中で新しい活動を始めようとしている人達がいいます。推進者のひとり秋津 勇さん（国際交流二期生）にその熱い思いを語ってもらいました。

私たちは在学中インドネシアゼミに属し、卒業後も月に二回の会合を続けていました。語学の勉強だけでは早晩行き



（写真は我々二期生、前列左から二人目はインドネシアのドウイさん）

詰まる予感がして、新しい方向を求めて、D部会に揃って入会しました。そして定例会合の対話の相手も、総ての外国人とのふれあいへと転換しました。

D部会には私達と共に台湾、マレーシア、中国関係のゼミに参加していた同期生もおり、それぞれ当時のサポーターとの間にチャンネルをもっています。

今回の全国トンポ市民サミット神戸大会の中で計画されている「外国人との交流会」には、かつてのサポーターを通じて外国人留学生に呼びかけ、適格な方々の参加がえられるようになりました。

この他大会のために計画しているバザーにも部会員全員が力をあわせて成功を目指しています。

私たちはこのように外国人支援ボランティア活動を進めています。いまのところはまだ小さな行動に過ぎず、時には自らの行為は相手方より、自身のために役立てていてのではないかとの思いにとられることもあります。

しかしそれぞれは自らの未熟な知識・経験を自覚しながらも、目的に向けて行動するとき、それを役立たせようとして精一杯の努力をしております。

どうか在校生の皆様にも、絶大のご声援・ご支援をお願いします。

いま「わ」ではトンポサミットでのバザー用品のご寄付を募っています。

在校生の皆さんからもよろしくご協力くださるよう、お願い致します。



魅せた「カレッジパワー」
 「わ」代表 福原克巳

夕焼けを感じさせるホールの照明にコーラス部員が浮かぶ。「赤とんぼ」の合唱に割れるような拍手が起こり、目をうるませながら高知（次期開催地）での再開を約す姿も見られた。あの感動的なシーンから早くも一か月余が過ぎた。八月二十二、三日の両日に開かれた全国トンボ市民サミット神戸大会は新聞各紙、テレビにもとりあげられ大成功だった。大会の裏方をしたグループ「わ」（神戸市シルバークレッジ社会還元センター）にも身に余る謝辞がよせられた。「わ」とともに、いや「わ」以上に活躍してくれた在校生の皆さんに紙上を借りてお礼を申し上げます。

トンボサミット実行委員長中瀬 勲氏（姫路工業大学教授）がカレッジの夏期大学で、「わ」の宣伝をして下され、笹山市長も大会の歓迎あいさつで、しあわせの村づくりにふれ、自然と人間との共生、今後の町づくりのコンセプトをあ

「シルバークレッジはその中核となる人間を育てる場だ」と最大級の期待を語りカレッジパワーにエールをよせられた。

二日間（準備からあとかたづけまでで四日間）「わ」と在校生の約三百人が動いた。一日目の二十二日のふれあいフェ

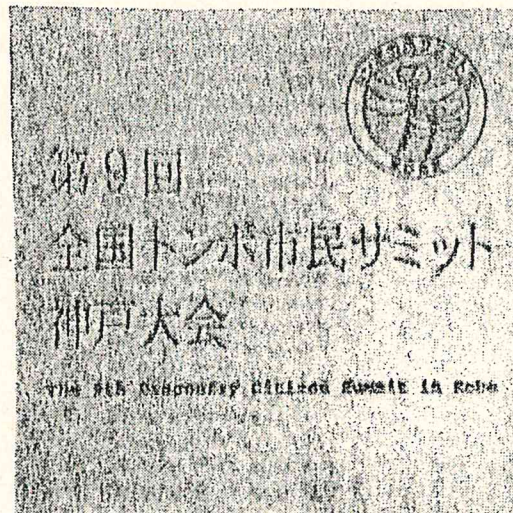
スティバルでは銭太鼓、邦楽、マジックなどの出演者をはじめホールの照明、効果、大道具などすべてを仕切ってもらった。そして圧巻だったフィナーレのコーラスは「わ」と在校生の共演でまさにカレッジパワーの発揮だった。

「再び学んで他のために」わたしたち一、二期生の有志約三百人は「わ」にどのい、約一年、さまざまなボランティア活動をしてきた。特養への慰問、デイサービスのお手伝い、しあわせの村の諸イベントへの協力、JR舞子駅周辺のボランティアガイドなど大小のグループが市内のあちこちで活躍している。

こんどのトンボサミットには同人の人数が実行委員に加わり、一年余りの準備のすえ開催に漕ぎ着けました。しあわせの村、カレッジという素晴らしい施設、そしてカレッジパワーの応援で成功裡に終わりました。

さきに述べたように、在校生の皆さんの絶大な応援なくしては「わ」だけでは

乗り切れなかったでしょう。今度の体験を生かし毎年の卒業生から「わ」への加入者が増えることを願ってやみません。終わりにになりましたが、いま一度、皆さんに心からお礼申しあげます。



※お知らせ！
 今回のトンボサミットのビデオテープ（六〇分）を「わ」の事務局に保管しております。ご希望の方にはお貸しいたしますので申し出てください。



「推進しよう：シルバーパーワーを」

二十一世紀に向けてー」

◎社会還元センター・グループ「わ」の第一回臨時総会が去る九月十七日、カレッジホールで開催された。昨年「わ」が発足してようやく一年が経過し、八月には組織をあげてトンボサミットに協力、

本年四月には「わ」への二期生の入会など、事業のひとつの区切りとしての臨時総会である。会員三〇四名中一三〇名が出席。臨時総会は二部からなり、第一部では来賓が招待された。

◆第一部

★招待来賓はカレッジ副学長・同事務局長、神戸市社会福祉協議会福祉活動部長および各区ボランティアセンター所長あるいはコーディネーターなどの九氏。小前副学長からは、トンボサミット関連の冊子作成や、地域でのボランティア活動など、会員相互の「輪」のより一層の強化による粘り強い活躍への期待が、そして長谷川福祉活動部長からは、多数の会員の多岐にわたる分野での活躍は明るく

活動に満ちた未来社会の到来は疑いないなどそれぞれ「わ」への熱い期待が寄せられた。

★ついで金川「わ」事務局長から事業報告があり、七部会の活動状況、トンボサミット開催関連の委員協力・カレッジあがての協力などのほか、「わ」のPR不足の声に対する反省と改善策としての企画委員会発足・各区に世話人設定による組織強化等について説明。

★つづいて「再び学んで他のために：明日の「わ」を語る」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

コーディネーターは丸尾講師（国際交流協力コース）、パネラーは（以下敬称略）田村、小倉、西村、宮城、小島など会員五名。

まずパネラーにより、これまでの活動状況が報告され、社会還元として少しでも、何かのお役にたちたい；など希望が述べられた。そしてコーディネーターからは「個人的につながりを求めた活動がやがて大きな力になり、広く地域全体につながる発信源がシルバーカーレッジであり「わ」の集まりである」として前半が締めくくられた。

ついで「今後の「わ」の活動の夢」について対話がつづけられ、コーディネー

ターがパネラーの意見をまとめ、「シルバーカーレッジは実験の場であり、実践につながるのは「わ」の力による。進みながら目的をつかんで、21世紀に向けて力を発揮してほしい」と結論してパネルディスカッションを締め括った。

◆第二部

★会計報告では板谷委員から、今回は経過報告であり、平成九年十月一日〜平成十一年三月三十一日の十八ヶ月を一事業年度とする旨説明、了承された。

★規約の説明では胤艸委員から、当初事務局案に基づいてセンターを運営していくなかで必要に応じて逐次修正して暫定規約の形で運営。通常総会で正式規約となる旨説明。

「地域に密着：情報連絡網できる」

◎各区の会員から一名の世話人が出席、九月二十九日第一回地区世話人会が開かれた。各区ボランティアセンターとの連絡を密にし、地域の要請に即応、かつ積極的に需要を引き出そうとするものだ。各区における問題点について意見交換、今後の対策を検討した。この組織は「わ」の活性化にも必要。加入保留の旨の積極的協力が待たれる。

その後、世話人会は「地区委員会」と改称された。（「わ」F部会 横田）



【「わ」委員会だより】

●第十九回運営委員会（平成十年十一月十一日）

一、次期「わ」の運営は主としてⅡ期生運営委員により取り組むよう早急に体制づくりをする。また、Ⅲ期生の「わ」への勧誘はⅡ期生が行う。

二、部会の統合および名称変更を行い次記のように分かりやすくした。

- A・B…生活文化部
- C…地域ふれあい部会
- D…外国人支援交流部会
- E…くらしの環境調査部会
- F…情報部会
- G…福祉部会

①カーポランティア

②各種お手伝い

●第二十回運営委員会（平成十年十二月四日）

一、「社会還元のおゆみ」資料Ⅱ平成五年から現在までのカレッジのおゆみをまとめ、今年二月ごろ発行予定。

●第三回地区委員会（同年十二月四日）

一、区ごとの「わ」の組織を整備し、区ポランティアセンターへは「わ」として登録し、代表は各地区委員とする。

二、ポランティア保険には「わ」として加入する。

【各部会の活動状況】

①A部会Ⅱオリンピアでの書道指導を月二回。

②C部会Ⅱ★十月二十四日ハートフル須磨のイベントに三十八名参加。★十二月十八日玉津「のぞみの家」の忘年会を企画担当し六十五名参加。三味線独奏、リクエスト六曲の合唱、銭太鼓、コーラス等を熱演。

③D部会Ⅱ★昨年のバザーやコーヒー販売等で得た支援積立金十万円を「アジア福祉教育財団難民事業本部関西支社」を通じて、難民の高校生・就学生ら五人に平成十一年二月ごろ一人あたり二万円づつ「わ」から支給する。★昨年十二月九日

外国人との交流忘年懇親会を神戸学生青年センターホールで開催。トンボサミットに出席の外国人を中心に、他留学生にも呼び掛けインドネシア、マレーシア、フィリピン、ガナ、イラン、中国、ベトナム、ペルー、イギリス、フランス、台湾など十一カ国から十八名、D部会から二十七名、合計四十五名が交流。

「これからも交流を続けよう」との挨拶の後、立食スタイル、レストラン風に懇親会。お互いに名札を見ながら団欒。女性会員が童謡「赤トンボ」の歌唱指導そして全員が合唱。リラックスのなか台湾の五名が母国語で歌を披露。フィリピンの女性がタガログ語でハーモニーよくクリスマスソング。イラン、ガナナの男性二名がこれに加わり、はては「ジングルベル」を全員合唱で盛り上がる。最後は「炭坑節」で全員が盆踊りの「わ」になってフィナーレ。「国際交流」の感ひとしお。再開を約して閉会した。

④E部会ⅡⅡ期生を中心にごみ収集方法の問題点を検討。

⑤G部会Ⅱ引越しポランティアは一段落したが、カーポランティアの需要が多い。各区で協力できる人があればお願いしたい。（連絡先：☎八六一―三五四九岡 雄さんまで）

【特記事項】

一、平成十年年度学園祭実行委員会よりグループ「わ」に六万四千七百円のご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

二、「愛の輪運動」に「わ」が入会。その機関紙に「わ」が紹介された。

三、今年「国際高齢者年」「わ」として大きな活動目標に取り組みたい。



【「わ」委員会だより】

●運営委員会

一、Ⅱ期生の運営委員四名、地区委員三名および同窓会から二名からなる新年度「わ」役員推薦のための準備委員会が設けられ、作業が始められた。

二、「わ」へのⅢ期生入会の作業が進められた。

三、国際高齢者年の今年八月に、「わ」主催の行事として講演会や子供を交えたスポーツ（しあわせの村内）などのイベントを計画、プロジェクトチームを結成して進めることになった。

四、二月にはカレッジ側および「わ」側が出席のうえ市役所において「わ」の活動について新聞記者会見がおこなわれ、一月に出来上がったカレッジのパンフレットを配布して「わ」の具体的活動内容についてPRした。

五、「わ」定期総会の日程が決められ、これに向けて事業報告、事業計画、収支

財政、規約、組織等の資料作成作業を進めることになった。

六、定期総会の会場の準備、総会の進行等についての役割分担が決められた。

七、Ⅲ期生の「わ」入会状況は四月一日現在で一六〇名（卒業者数三六四名）との報告があった。

八、定期総会終了後にアトラクションを行うかどうか、その内容等について検討がなされた。

●地区委員会

一、各区ごとに区ボランティアセンターとの連絡が密に行われ雪祭り・復興祭り・社協の手伝い・絵画指導等の活動に参加。
二、西区のボラセン情報誌に、のぞみの家での「わ」の活動記事が紹介された。

●各部会活動

①A/B部会Ⅱグリーンスクールで料理講師派遣・琴演奏、神楽園での琴演奏、サンボーホールでの震災四周年生活復興フェニックスマーケットに抹茶サービスや琴演奏で参加。

②C部会Ⅱ西区復興まつりにマジックで参加。

③D部会Ⅱ神戸青年学生センターで外国人交流親睦会開催、十一か国（十八人）と親交。コロンビア地震の募金活動の二万四千円をコロンビアへの仮設住宅輸送資金として寄付。D部会奨学積立金を難民事業本部に寄贈。

国際高齢者年記念行事

住田 功一 (NHK)

ほっとトーク (無料)

「私が出会ったヘルシービーブル」

日時・1月22日(日)午後1時30分～

場所・神戸市北区しあわせの村

神戸市シルバーカレッジホール

略歴・1960年神戸市生まれ。神戸大、京大卒。神戸大学農学専攻。1965年NHKアナウンサーとして入社。現在、総合テレビ(カ～東) 朝8時～生活11時とモーニングのキャスターと毎日みゆきアナウンサーとして担当。

同時開催

みんなて祭しもろヨ

ニューススポーツ

グラウンドゴルフ、ローンボウルス隊カ

日時・1月22日(日)午前～午後

場所・しあわせの村 芝生広場など

④G部会Ⅱ夢野小・幼で人形劇訪問。みなとまつりへの参加、昔話の語り部の依頼を受けた。フェニックスリレーまつりに抹茶コーナー（客四百人）・琴演奏で参加し、副知事からはお礼の言葉を頂いた。さらに会員により「わ」の宣伝が行われた。

（「わ」F部会 横田）



【第一回定期総会開かれる】

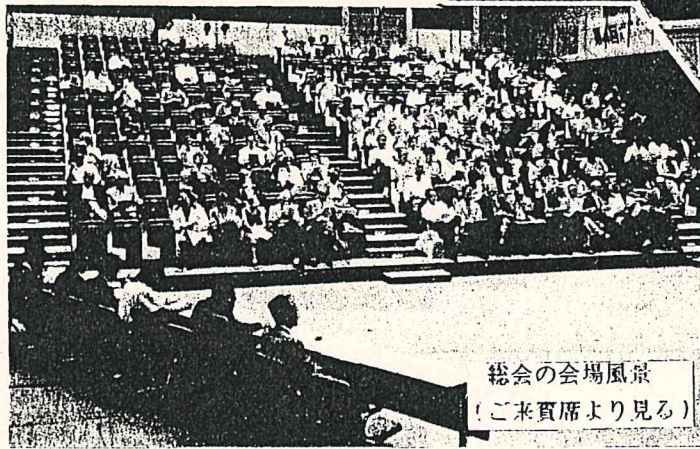
昨年は四月のⅡ期生の入会、八月のトンボサミットの終了など、事業のひとつの区切りとして九月に臨時総会が開かれた。今年はさらにⅢ期生の入会、国際高齢者年に関わるイベント事業の推進およびⅡ期生委員への「わ」運営の移管等を含め、去る五月十七日午後一時三〇分から第一回定期総会が開催された。

◆招待来賓は市保険福祉局高齢福祉部長中西研二氏、シルバークレッジ副学長北島霞氏、シルバークレッジ事務局長和田宣一氏、社会福祉協議会福祉活動部長長谷川清文氏、中央区ボランティアセンターコーディネーター垂井加寿恵氏、兵庫区ボランティアセンター所長村主篤也氏、須磨区ボランティアセンター所長村田徹氏、西区ボランティアセンター所長稲岡敏郎氏、北区ボランティアセンターコーディネーター山口久美子氏、がんばろう神戸代表堀内正美氏の十氏。



ごあいさつ (中西部長)

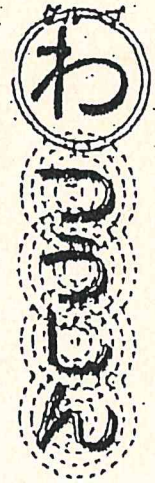
円)、ベトナム人高校生支援資金支給、コロンビア大地震の募金等の活動。④暮らしの環境調査部会では、トンボサミット開催に対する実行委員・会場設営・フェスティバル・トンボ環境国際フォーラム・「しあわせの村の自然」記念誌発行・夏期講座などに向けて「わ」会員と在校生のボランティア三百名による特別協力や中高生向け「最新環境用語集」作成と中学校への寄贈等の活動。⑤情報部会では「情報誌」の発行・緑地課依頼による「こんにゃく作り」パンフレット作成。⑥福祉部会では、中央・兵庫・須磨・西・北各区ボランティアセンター依頼の障害者カーボラ



総会の会場風景 (ご来賓席より見る)

◆平成十年度事業報告として▼①生活文化部会では、市の地域施設における習字・読み聞かせ・折り紙・音楽・邦楽・茶道・園芸等の活動。②地域ふれあい部会では、地域におけるイベントやまつりでの各種出店・演芸、明石大橋での観光ガイド等の活動。③外国人支援・交流部会では、見学などの障害者バス旅行介助、障害者のトンボサミットにおけるトンボ環境国際フォーラム開催、和英対訳の「須磨の史跡」六百部作成、長江洪水の募金(七万

会の事業活動の概要説明があった。



○第一回運営委員会よりの報告

運営委員会は、第三金曜日午後一時から、また、企画委員会は同日の午前十時から行うことを決めた。

○国際高齢者年のイベントその後の進捗状況

①スポーツは、カレッジホール、芝生広場、ローンボールス場を使い、午前中に行う。

②イベントは、カレッジホールにて午後より、講演会とコーラスを催す。

③野焼き体験教室が、シルバーカレッジ主催で開かれる。

④兵庫県国民健康保健団体連合会、

神戸市アスリートタウン・クラブなど、若年者から老年者までが、かかわったボランティア活動などのパネル展示。

⑤茶席、コーヒー、バザールなどの出店。

【観光客から：笑顔と感謝…】

きょうもガイドで送る

「行ってらっしゃーい！」

シルバーカレッジ垂水会（横田）

昨年四月、明石海峡大橋が開通。連日JR舞子駅から淡路・徳島方面への旅行者が連日多く、ことに土曜・休日には家族連れや老若男女、賑わいひとしお。

しかし大橋開通当初から淡路方面行きバス・舞子駅周辺の観光施設（海上プロムナード・橋の科学館・舞子タワー・海浜公園など）・ホテル・レストラン等へのアクセス不案内の観光客が多く、これに対してシルバーカレッジ垂水会の一期生のあいだで、観光ガイドボランティア構想が浮揚。対策検討の末、関連機関との了解も得て、土曜および休日の午前と

午後、三、四名づつ交替でボランティアガイドを発足、実施に先立ち垂水会役員によるガイド研修会を行い、各施設へのアクセスを体験確認。一期・二期会員から四十六名（会員の五割）がガイド要員として登録参加。「ボランティアガイド：シルバーカレッジ垂水会」の立看板のもと、ガイド帽子・ガイド腕章をそれ

それぞれ着用

ガイドデ

ータを記

入しながらの地域

活動である。昨年

八月から

本年三月

までの八

か月間のガイド実績は下記のとおりである。



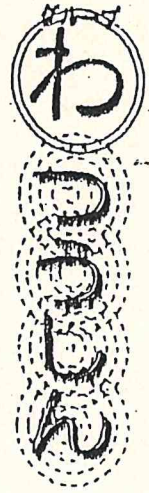
月別	日数	時間区分	高速バス	加け	舞子ビラ	トイレ	淡路観光	舞子	以	写真補助	舞子	その他	合計
合計	04日	午前	808	509	530	298	371	103	138	117	148	781	3866
		午後	459	300	331	178	190	84	150	62	74	506	2334
		計	1267	809	921	476	561	192	286	179	222	1287	6200
1ヶ月平均		午前	101	64	74	37	46	14	17	14	19	98	483
		午後	57	37	41	22	24	10	19	8	9	63	292
		計	158	101	115	59	70	24	36	22	28	161	775

【注】

1. プロムナードには、橋の科学館を含む。
2. その他欄で多いのは、周辺の案内、駅の案内（JR舞子、山陽舞子）タクシー乗り場、ロッカー等である。

●訂正とお詫び

四十一号の六ページ八行目の「九月十七日」を「五月十七日」に訂正のうえお詫び申し上げます。



【大成功！】

『いきいきヘルシーライフ』

神戸市シルバーカレッジ

社会還元センター

国際高齢者年記念事業実行委員会

実行委員長 福原 克巳

去る八月二十二日「国際高齢者年・しあわせの村開村十周年記念事業」として、私も社会還元センター（グループ「わ」）が主催の「健康」をテーマとする『いきいきヘルシーライフ』の行事をつつがなく完了することができましたことをご報告申し上げますとともに、終始ご支援を賜りましたシルバーカレッジおよび在学生の皆さまに厚く御礼申し上げます。

このたびの事業推進に当たりまして

は準備段階から長期にわたって、シルバーカレッジおよび在学生の皆さまに、多岐にわたるご無理なご協力をお願い申し上げます。快くお引き受けいただき、総力をあげてのご支援を賜りましたことに對し、深く感謝申し上げます。やっと準備も整い、開催を待つ日々、やや不順な天候の心配、講演会およびニュースポーツ等への参加者の未知数など気をもみましたが、開催当日は前日と打って変わってすばらしい天気。まさに、文句ない日本晴れ「いきいきヘルシー晴れ」に恵まれ、各会場プランは計画どおり大変順調に進めることができました。これは何と申ししてもご支援・ご協力をいただきました皆さまがたのお力添えによるほかはありません。関係者一同、心から感謝いたしております。ここに、改

めて重々厚く御礼申し上げます。

おかげさまで当日のスポーツ参加者数は、芝生広場（グラウンドゴルフ、ディスクゴルフ）一一〇名、ローンボウルス場（ローンボウルス）一二〇名、カレッジホールと中庭のニュースポーツ（カローリング、シャッフルボード、囲碁ボールとペタンク）二二〇名、そして講演会場は満席となって定員をオーバー、会場最上段の通路に設けた仮設席も満席、およそ六五〇名にも及びました。そのうえ、作業のため来場が遅れたボランティアの人たちや「わ」会員など約一〇〇名ほどは会場に入り切れず教室のモニターテレビにより聴講していただくなど、総計約一二〇〇名にも及ぶ、予想を上回る大盛況の喜びに浸ることができましたことを申し添えさせていただきます。

SCハワイアンズ初出演!

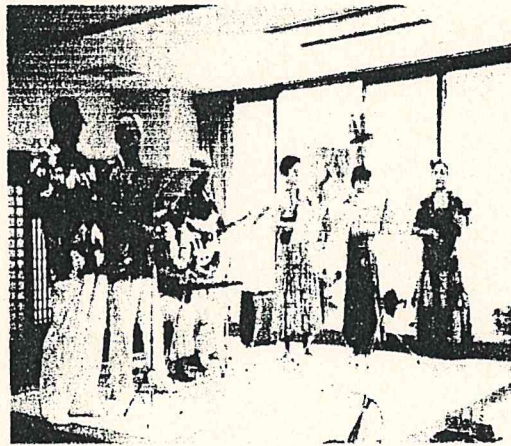
音文三年 垣尾 一士

今年五月、ハワイアンクラブもボランティアグループに登録。早速八月十七日に初演奏を、北在宅福祉センターで約五十名のお年寄の前で実施しました。(当日はマジッククラブも共演)

何分初体験だけに準備段階では意見も続出……『そんな早いテンポの曲はダメだ』『このムービーは少し派手じゃない?』『日本の童謡 抒情歌をもっと加えたら』『やはりハワイアンのスタンダード曲を入れるべき』『等々。しかし、限られた時間、ままよ、みなのお智と熱意でいこう、と結局フラダンスも入れた『ハワイアンショウ』ということでご本番。

結果は、案ずるより産むが易しで、皆さんの感想も『昔、聞き覚えのあるハワイアンの身近に聞いて懐かしかった』『以前ハワイ旅行した時のことが思い出された』等々。そんな中、フラダンスも大いにウケて拍手喝采、それに知床旅情、浜辺の歌などハワイアンムードの演奏に、皆さんも体を揺すり、手を叩いてリズムをとったり、口吟んだり、何か会場が一体となりこちらも熱くなりました。演奏終了後、会場から我々の年令を聞かれるというハプニングがあり、一瞬女性陣にと

ってはハッとされたと思いましたがそこはSCの面々、堂々と?ご披露、それなりの年であることを知った皆さん、「ヘーッ」とか「ワッ」とか言つて、ここでまた一段の拍手。



『また来てください』という言葉をあとに、われわれも少しは皆さんのハートに何か残ることをさせて頂き、我々も何かを得た思いで別れを告げました。

今回のSCハワイアンズの出演者は、

垣尾音文三、太田(国際三)、青山(国際二)、米谷(園芸二)、岩見(国際二)、松本音文OB、空閑(福祉OB) 以上七名でした。

台湾大地震 被災者支援募金

神戸市シルバーカレッジ社会還元センター
グループ“わ”
外国人支援・交流部会



● 四期卒業生の「わ」への

【多数入会を期待して】

去る十月四日、三年生のコース代表会議において、貴重な時間を頂いて『わ』の内容について松井代表から概要説明。そして十一月十日、各コースのホームルームにおいて、それぞれ『わ』会員から『わ』への入会のお願ひについて約十五分間説明させて頂くことになった。当日は『わ』の詳細資料も配布されるが、この紙面を借りて『わ』の現概況をご紹介させていただきます。

◆ 組織（六部会と九地方区）

★ 六部会

- ① 生活文化部会（略称A B部会）
- ② 地域ふれあい部会（略称C部会）
- ③ 外国人支援・交流部会（略称D部会）
- ④ ぐらしの環境調査部会（略称E部会）
- ⑤ 情報部会（略称F部会）
- ⑥ 福祉部会（略称G部会）

★ 九地方区（各行政区）

- ① 東灘地区 ② 灘地区 ③ 中央地区
- ④ 兵庫地区 ⑤ 長田地区 ⑥ 須磨地区
- ⑦ 垂水地区 ⑧ 西地区 ⑨ 北地区

◆ 部会の主な活動

★ 生活文化部会

- ① 折り紙・折染め・アートフラワー・健康体操・読み聞かせ・三味線といっしょに歌う・詩吟・歌・園芸・習字・陶芸・絵手紙などの指導 ② 抹茶・煎茶サービ
- ス・男の料理教室 ③ 子供たちへの昔あそびの伝承。

★ 地域ふれあい部会

- ① 人形劇の公演を保育園、幼稚園、特養などで ② コーヒーサービスでまつりに参加 ③ マジック・銭太鼓・邦楽などで復興住宅慰問 ④ 観光ボランティアガイドを垂水地区会員が舞子駅周辺で・各地区会員の有志が有馬の太閤湯殿館内で

★ 外国人支援・交流部会

- ① ベトナム難民の日本語指導・日常生活相談・バザー売上金による難民高校生支援 ② 市内の大学留学生との交流会・親睦会 ③ 外人観光客用に「須磨の史跡」の和英対訳冊子を作成、神社仏閣に配布
- ④ 外国の大災害に対する募金活動

★ ぐらしの環境調査部会

- ① トンボサミット記念誌「しあわせの村の自然」・「最新環境用語集」を編集し
中高校・図書館に寄贈

★ 情報部会

- ① 『わ』の情報誌発行 ② 村の緑地部依頼で「おもしろ発見・薬草園のこんにゃく」小冊子作成 ③ 外部ボランティアグループの依頼のミニコミ紙印刷

★ 福祉部会

- この部会に対する依頼は最も多い。
- ① カーボランティア：身体・知的障害者の病院・作業所などへの送迎や介助 ② 障害者・高齢者のバス旅行・外出介助 ③ 養護学校生のキャンプ手伝い ④ 知的障害の子供たちへサッカー指導 ⑤ 介護の話し相手や介助。
- 特にマイカーによる送迎は定期的な実施が多いため人員確保に苦慮している。

トルコ地震義援金として四二、五三二円を八月二七日、NHK神戸放送局に寄金させていただきました。ご協力、ありがとうございました。

（『わ』情報部）

卒業生による

…社会還元センター『グループ“わ”』…

！ナウはっしん！

●4期生のみなさんの

…“わ”入会を期待して…

去る11月10日、午前には国際と生環、午後には福祉と総芸の4期生の各ホームルームに“わ”の役員が出向いて約15分間の貴重な時間をいただき、“わ”の組織および活動内容ならびに現況について説明をさせていただきました。

“わ”については、すでに多くの方がご理解されている様子を伺い知ることができ大変うれしく存じました。

2学期末ともなり、卒研のまとめでお忙しい日々と存じますが、ホームルーム当日配布させていただいた“わ”の各資料について再度お目を通していただき、とり一層多くの方のご理解を賜り、社会還元活動に意欲のある多くの方が“わ”にご入会頂きますようご期待申しあげます。

今後もコース代表の方と連絡とり、機会あるごとにご説明に上がりたいと存じます。来年の1月および2月のホームルームの際には「“わ”入会申込書」をお届けいたしますので、活動の所属部会および所属地区会（行政区）をご記入のうえカレッジ事務局前または2階の“わ”

の事務局に設置の投入箱にお入れください。

なお、“わ”に関してお問い合わせの向きは、火曜日と金曜日の10:30～16:00まで2階の“わ”事務局に役員が常駐しておりますので、ご自由にお越しください。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

●…対応急がれるボランティア…

“わ”の生活文化部（AB部）、地域ふれあい部会（C部）、福祉部会（G部）、各地区会などが展開しているボランティア活動に対して、現在特に増強の急がれるものに下記の活動があります。

- ①カーボランティア：新要望に対応の要員、②高齢者介助：中央区真愛ホームで入浴後のドライヤーの世話や話し相手、③有馬温泉観光ガイド：湯殿館での金・土・日・祝日のガイド要員、④須磨区：白川台特養介護センターの訪問員、⑤特養のリハビリを対象：習字指導・ケン球あそび・プラモデル作り・お笑い（落語など）提供・折り紙。

（『グループ“わ”』F部会）

卒業生による

・社会還元センター『グループ“わ”』…

グループ“わ”情報誌編集部

- “わ”事務局から御礼申し上げます
- ☆ 昨年12月10日、学園祭実行委員会から“わ”に対して下記のご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

① ¥45,000

(但し社会還元活動資金として)

② ¥400,000

(但し2000年から始められる介護活動資金として)

- ☆ 外国人支援交流部会の台湾震災義援募金活動にご協力いただき御礼申し上げます。下記の義援金を神戸華僑協会に寄付いたしました。

① ¥85,855 (昨年10月18日)

② ¥15,000 (昨年11月9日)

- “わ”への入会をお待ちしています
- さる1月20日、4期生の皆さんにグループ“わ”への入会申込書を配布させていただきました。カレッジ事務局前・2階“わ”事務局の赤い箱にお入れください。ボランティア活動分野は複数でも結構です。3月末までによろしく。



● “わ”の活動

[1] 部会の活動

① 生活文化部会 (AB組)

延べ：49名・14施設

指導：折り紙・歌唱・生け花・ペーパーフラワー・習字・詩吟

来村者サービス：茶道・煎茶

音楽等：三味線演奏・ナツメロ

② 外国人支援・交流部会 (D組)

去る12月、外国人26名(9か国)を交えて忘年懇親会を神戸学生青年センターで。

王麗芳氏(講)から義援金のお礼があった

③ 福祉部会 (G組)

カーボランティア：活動3名・3施設、延べ35日、35往復。

[2] 地区の活動

① 東灘区：介護保険に関する医療シンポジウムに出席。

② 中央区：書道・歌唱・絵画等の指導延べ4施設・9名、医薬代理受け取り1名

③ 長田区：社協主催のボランティア講座に出席、ボランティア意見交換会に延べ10名参加。

④ 須磨区：須磨海岸清掃11名

⑤ 垂水区：「垂水の将来像」の講演会開催(日輪会との共催)、舞子駅周辺の清掃に10名(11日)・区主催清掃キャンペーンに9名参加、舞子周辺のボランティアガイド延べ10日・1820件・69名(11日)、延べ9日1049件・65名(12日)

⑥ 西区：園芸・陶芸・ワープロ・詩吟・茶道・造花・歌とゲーム・バレーボール着付等の指導延べ43日・12施設・14名、煎茶・抹茶サービス延べ8日・3施設・8名、その他延べ21日・7施設・8名

⑦ 北区：有馬温泉ボランティアガイドに毎週金・土・日曜日・3名ずつ参加



● お知らせ

① 環境功労賞で表彰

去る12月10日の「エコライフ神戸市民の集い」において、『環境学習の推進に貢献』として生環1期の板谷圭介氏が表彰されました。

② 垂水区広報に調査研究の紹介

1月15日の垂水区広報に生環3期中の島洋吉氏ら5名のグループによる卒業研究『福田川の自然環境』が紹介されました。



2階の“わ”事務局には火曜日・金曜日に係員が常駐しております。いつでもお越しください。



「春暖に想う句」

生環3年 豊田 實

「花に来て蕾に風を聞くばかり」奈良のお水取りもはじまり、やがて終わる頃、新聞の片隅の花だよりに、「さくら前線北上」このひと言がどんなに多くの人々の心を和らげることだろう。街路樹のさくらの蕾は、まだ固いが芽を吹こうとする息吹が感じられる。

町全体が冬の孤独の寒さとちがひ、全体にうす紅色のもやに包まれて煙っている。

「山路来て何やらゆかしすみれ草」芭蕉が野ざらし紀行の中で吟詠した句である。山路に人目につかず咲いている草花にも心をあらわし、まるで友人のように、「花見顔ね」と話しかけるような親しさを感じる。旅に出て敏感になっっている心は、いつもは気にもとめないものにさえ、心がとまったりとした詠みぶりにすばらしさを感じる。日本人の心の中には、万葉の昔から貴族、庶民の關係なく短い詩を詠うという生活習慣の伝統がある。

また、四季のうつり変わりや感情の喜怒哀楽のつど、詩を詠んでみたいという願望もある。五七五の十七音でできている俳句は、島国に住む日本人の知恵とやさしさが、生み出した珠玉のような文芸ではないだろう。

作者、卒業につき執筆を終わります。長い間ご愛読ありがとうございました。



IV期生の皆様へ

ご卒業おめでとうございます。

同窓会より

期別	I期	II期	III期	計
福祉	87	50	79	216
国際	82	51	85	218
生環	77	52	94	223
美工	25	25	28	78
音文	23	19	23	65
園芸	22	19	24	65
食文	20	23	25	68
計	336	239	358	933

私達の全校同窓会は、昨年五月に発足いたしました。会員の現状は上表の通りです。

昨年の活動は、五月三日の総会でスタートし、学園祭模擬店への参加、カレッジとの話し合い、地区同窓会との連携の模索などを行いました。

これからもカレッジ仲間を助け、活動の場も地域に拡げて、共にカレッジで学んだ喜びを、より感動のある人生に活かすと共に、カレッジ同窓会の存在をアピールできるように努めていこうとしている、まだ基礎づくりの段階です。

IV期生の皆様も是非ご参加頂いて、一緒に同窓会を素晴らしいカレッジ仲間の集まりとして育てていきましょう。ご参加をお待ちしています。

なお、費用は入会時のみで一人二百円です。各コースでまとめていただいで次のメンバーにご連絡ください。

- 福祉 吉田 Tel 581-8895
- 国際 笹村 Tel 709-7922
- 生環 中島 Tel 781-3606
- 美工 末吉 Tel 706-0667
- 園芸 矢口、Tel 733-6526
- 音文 中島 Tel 792-1713
- 食文 大見謝 Tel 591-4836

よろしくお願ひします。

(広報担当 O B II期生 野間健三)

“わ”情報ぎやらりーから!

地区からの呼び掛け!

中央区地区委員 原田 資三

【中央区の現状】

- 1) メンバーは ①KSC 卒業生 (I~IV期生)
 ②グループ “わ” 登録者
- 2) 活動対象は ①老健 “こうべ” 「絵画の指導」「書道の指導」
 ②特養 “真愛ホーム” 「入浴後のケア」「話相手」「外出介
 後」「歌唱の指導」
 ③特養 “ケアポート神戸” 「買い物介助」「料理教室の助手」
 ④一人住まいで身体障害者の人

「代理で病院に投薬を取り」

※〔老健〕：老人ほ件施設 〔特養〕：特別養護老人ホーム

- 3) 以上の他に 特養 “ケアポート神戸” から「ホーム喫茶」「絵画指導の手伝い」
 「書道指導の手伝い」「少し遠出の外出介助」など、依頼が来て
 いる。人手不足で下応じられず今のところ保留となっている。

中央区内は KSC 卒業生が少なく、したがってグループ “わ” の登録メンバーは 13 名に過ぎず、その中でも都合や事情があって実際に活動しているのは極く限られた人数で、特養 “真愛ホーム” での活動は北区・兵庫区在住の「福祉部会」の方をお願いして担当していただいている状態です。

本区は施設での活動が多く、しかも継続的な内容で人数を必要とし、近在のマンパワーをどうやって確保するかが問題で、今後とも活動を進めて行くにあたって地元・近隣区でメンバーを急ぎ増やすことが大きな課題となっています。

〔部会〕に所属して活動するには特技・体験が必要とします。が、〔地域〕での活動は必ずしも過去のボランティア経験や特技・体験が無くても、元気で助け合い支え合おう…の気持ちがあれば、誰にでも幾らでもできるものがあります。私たちは一人でも多くの仲間を必要としています。

つきましては、みなさんにはご都合も・ご事情もあるかと思いますが、月に 1~2 回、1~2 時間程度、高齢者や障害者の施設でのボランティアに手を貸していただけないでしょうか。

なにかを社会に還元できれば・僅かでも社会福祉の役に立てれば…と、スタートしたこの地域活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

ご協力をいただけます場合はお手数ですが、下記までご連絡を下さい。

連絡先：Tel 743-8001 グループ “わ” 事務局

または：Tel 302-1190 原田 資三 まで

卒業生によるボランティア活動
グループ

“わ”情報ぎやらりーから

グループ “わ” より ご挨拶
代表 中島 洋吉 (生環3期)

私はこの5月17日の定期総会において、グループ“わ”の代表に就任いたしました。

グループ“わ”は平成9年7月に、シルバーカレッジで学んだ学習の成果を地域社会に還元する目的で設立され、3年が経過して会員数は5月17日現在601名の大きな組織になってまいりました。

私たちの活動は、生活文化・地域ふれあい・外国人支援交流・暮らしの環境調査・情報・福祉の6つの部会を縦糸に、各地域の会員を横糸にして、各区のボランティアセンターからの要請に対応したり、各養護施設や、特別養護老人ホーム等からの直接の要請に対応した介護・介助や慰問などを主に行なっております。最近では活動の範囲も広がり、高齢者の生きがい健康づくりの分野や、環境改善につながるような活動、また地域独自の活動を行なうようになってまいりました。活動の場所が、学校以外の地域であるため学生の皆さんは、グループ“わ”の活動がよく見えないかも知れません。

在学生の皆さんは、SCボランティアセンターの方々の部に所属されて、活動されています。同じ目的の活動には、お互いに声を掛け合って、協力しながら活動して行ければより効果的な活動ができ、お互いの活動内容も知り合うことができるのではないかと考えております。

また、“わ”の組織としても、在校中に活動されたグループでの活動を卒業後は引き続き“わ”に所属されて活動できるような受け入れ体制をを採ってっていく必要があると考えています。

在校生・卒業生の枠を越えたボランティア活動ができる体制にするように、SCボランティアセンターとの連帯を密にして運営してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

“わ”情報ぎやらりー

から

ボランティア活動へ

地区からの呼びかけ！

須磨地区委員 梅谷 正芳

須磨海水浴場/海岸清掃にご協力をお願いします。

大阪湾随一の規模を誇る須磨海水浴場、最近では明石海峡大橋開通にともなって舞子・大蔵海岸に客足が移ったとは言いながらシーズン中は家族連れを中心に百万の人達で賑わいます。その分放置ゴミも多いわけで、須磨区有志メンバーは特に人出もゴミも多い土・日曜明けの月曜早朝の清掃に取組みました。

海浜公園を含むこの一帯は、ポイ捨て防止重点地域に指定されているにも拘わらずその効果はいま一つです。この活動状況は神戸新聞の記事にもなりましたが、これはグループ“わ”の認知、あわせてゴミを捨てない、ルールを守りまじょうの警報発信に繋がればと念じた次第です。

そして今年も恒例行事として、海開きのあとに下記要領で皆様のご協力・ご参加をお願い申し上げます。関空一帯を対岸に、また西南方向に大橋と淡路花博の東浦を望む須磨海岸で、大きな深呼吸をなさいませんか。

記

実施日：12年7月・8月の毎月曜日 早朝《小雨実施》

集合場所：須磨浦通1 シーパル須磨ロビー

集合時間：午前8時30分

作業時間：8：45～10：00

携行品：屑・ゴミ挟み 手袋 ポリ袋

申込み先：“わ”事務局 飯井冴子 Tel 743-8101

(毎週火・金 10:30～16:00)

須磨区委員 梅谷正芳 Tel 731-1326

申込内容：①住所 ②氏名 ③電話番号 ④期別

⑤参加日 (7月3・10・17・24・31/8月7・14・21・28)

1日/回でも複数日/回でも結構です。ご連絡お待ちしております。

ぎやらりー (情報誌 50号) 文中 正：夫々、誤：方々に訂正下さい。

卒業生によるボランティア活動
グループ

“わ”情報ぎやらりー

TEL(078)743-8101

FAX(078)743-8103

神戸市シルバーカレッジ社会還元センター

グループ“わ”情報誌編集部

部会からの呼びかけ

…福祉部会からのお願い…

福祉部会 介助活動部会長 後藤 慶子

8月3日(木)、福祉部会では各期世話人が集まり、中央区特養「真愛ホーム」でのボランティア活動について下記の話合いをしました。

- ◆ 翌月のスケジュールと活動日程の確認について
- ◆ “わ”メンバー要員の確保について
 - ・中央区の“わ”会員は現在10数名であること
 - ・会員ご本人の健康上に問題が生じてきたこと
 - ・ご家族の事情で活動に支障が生じてきたこと
 - ・限られた会員に活動の過重が見られること

(すでに地域社会で活動をしている会員に加えての活動をお願いしている現状のこと)

などいろいろな問題について率直に話合いをし、下記のお願いを皆さまに呼び掛けることになりました。

- ◆ 中央区の「真愛ホーム」から毎月活動の依頼があり、すでにこの活動は1年以上継続しています。3、4期生の方々に1ヵ月/1回、2ヵ月/1回、3ヵ月/1回の活動参加とご協力をお願い致します。

「真愛ホーム」：買い物時の外出介助(月曜日午後2時～3時すぎまで)

：入浴後のケア(水・土曜日午前10時～12時まで)

この他にも花見、夏祭りなどのイベント時の介助活動もあります。できれば地域からあまり遠くない方をお願いしたいと思いますが、その限りではありません。私たちも必ずこれから歩く道ですので、あいている日や時間をご援助くださいませ。この活動を継続するために、是非皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

お問合せは：後藤 慶子 (583-5440)
 ：宮城 智子 (521-3391)
 ：井内 宇一 (521-8168)
 ：柳内 隆治 (583-1774)

卒業生によるボランティア活動
グループ

“わ”情報ぎやらくー

から

ボランティアに想うこと

福祉部会 G1 部会長 岡 雄

シルバーカレッジI期生の入学試験で、問題の最後は作文。題は「ボランティアについて」でした。それまでサラリーマン（尖兵）だった私は、自分のことで精一杯。正直いってボランティア（義勇兵）という言葉すら考えつかなかったの、いささか慌てたものでした。学生時代にバスケットボールで協会のお手伝いをしていたことを思いだし、なんとか試験場を出てきましたが、ボランティアに対する意識はその程度のものでした。

ところがシルバーカレッジに入学でき、1年3カ月後に起こった阪神・淡路大震災のあと、シルバーカレッジにボランティア・センターが発足し、センター長に祭り上げられ、それから、カーボランティアの仕事については、すっかり気持ちが変わってしまいました。60年生きてきて他の人に尽くすことが、いかに楽しいか、もちろん毎日の糧を得なくてもやっていける余裕（年金）があったからではありますが、ボランティア漬になってしまったのは事実です。

カー・ボランティアの仲間は少数でした。震災で頭を強打し、意識不明の重体から回復し、リハビリにに通う少女を病院への送迎から始まり、仮設住宅からの通院、付き添う身内の方が、高齢になって動けない障害者を施設までの送りむかえ。バスとかタクシーでも通園不可能な障害児の移送サービスな

ど、ある時は、言葉が通じないだけに、危険を感じつつ活動することもあり「もっと助っ人がふえてくれたら…」と心から思ったものです。「手伝ってあげたいんだが、もし事故でもおきたら…」というのが参加していただけない最大の理由です。

ところで、ボランティア活動をしていて痛切に感じることは「お手伝いをして上げている」という気持ちを絶対に持ってはいけないということです。我々に協力を頼んで来る人たちには、よくよくの事情があったのことで、自力で困難を克服しようと努力されて、なお困り果てた人たちであるのです。心からのお付き合いを考えることが必要な反面、安易な同情も禁物であるということが分かりました。

いま、阪神タイガースの監督をされている野村克也氏は、南海の監督からロツテの捕手に降格されたとき（1978年=42才）『生涯1捕手』と心境を語りました。私もシルバーカレッジの1期生として再び学びグループ“わ”に入れてもらったのですから、車を走らせながら「生涯1ボランター」として、利用者には「ありがとう」と喜んでもらえ、社会に還元できるよう、頑張っていこうと思っています。手伝ってやろーという人がたくさん現れるのを心待ちにしながら…。

神戸 21 世紀・復興記念事業 参加イベント

もういちど出会えてありがとう！

ゴスペル1000人の大合唱

翔け！未来へ

神戸 21 世紀・復興記念事業の一環として、被災された方が震災時にお世話になった支援者の方々に、元気になった姿や生まれ変わった神戸を見て頂き、感謝の気持ちを込めて“再会を共に喜び合う”一日です。

とき 2001 年 1 月 20 日〔土〕 15:00～

ところ しあわせの村 神戸市シルバーカレッジホール

12:00～“天使にラブソングを・Ⅱ” 2階教室でビデオを上映します。

ちょっと一杯熱燗などもあります！

主催：神戸市シルバーカレッジ社会還元センター グループ“わ”

特別協力：こうべ市民福祉振興協会・神戸市シルバーカレッジ・KOBE Mass Choir

卒業生によるボランティア活動
グループ

“わ”情報ぎやらしー から

「コーロKSC」の初リサイタル

代表 松本 輝雄（音文3期）

カレッジ混声合唱団「コーロKSC」が来年2月28日（水）18時から文化ホール・大ホールで初リサイタルを行ないます。このことは神戸市が無料ホール貸し出しのイベントに乗って実現しました。

「コーロKSC」はカレッジ開学と同時の1993年11月に組織されました。阪神淡路大震災の折にカレッジは休校を止むなくされました。私達は避難所、仮設住宅に慰問に出掛け、歌い継いできました。数多くの感謝状を頂くことにもなりました。いま、社会還元センターグループ“わ”、在校生ボランティアグループのメンバーとして老人施設への慰問など活動を続けています。

結成以来7年余の歳月、努力を重ね、団員も90名になんなんとする大合唱団となりました。

一昨年度「全国シルバー合唱コンクール」に努力賞、本年度銅賞を受賞。神戸市優秀合唱団出演の榮譽が与えられる「アジサイコンサート」に2年連続で選出されました。

大ホールは収容人員2000名余のホールです。是非みなさまのご来聴をお願いし、成長した「コーロKSC」の混声合唱を楽しんで下さい。そして、ご声援を頂きますようお願いいたします。

ボランティアのお願い

いつもグループ“わ”の活動にご理解とご協力を頂いて有難うございます。さて、グループ“わ”のイベント「1000人のゴスペル大合唱」の当日、ハンダナ（ハンカチ大）をおみやげにお持ち帰りいただきます。つきましては「端ミシン掛け」のお手伝いを多数の方をお願い致したいのです。よろしくお願い致します。《連絡先：TEL 743-8101 飯井まで》

グループ“わ”イベント「1000人のゴスペル大合唱」について、共通授業の時間を少し頂戴してPRします。よろしくお願ひします。

1年生：11月28日（火）
2年生：12月21日（木）
3年生：12月18日（月）

ご存知ですか、グループ“わ”

このページでは通例、グループ“わ”の広報紙「わ通信」から適当なページの提供を受けて紹介しておりますが、今回は同グループの紹介です。将来進路の参考にしてください。

神戸市シルバーカレッジ 社会還元センター『グループ“わ”』紹介

設立の趣旨

神戸市シルバーカレッジの卒業生が、3年間親しんだ学校と仲間を基点とし、学習の成果を再び社会に還元するために『神戸市シルバーカレッジ社会還元センター』愛称「グループ“わ”」が設立され、高齢社会の担い手として、有意義な社会還元活動を実践するボランティア組織です。

組織と主な活動内容

会員数は現在約 600 名で卒業生が自主的に運営し、事務局は神戸市シルバーカレッジ内に置いています。

○生活文化部

折り紙・生け花・習字・陶芸・読みきかせ・詩吟・邦楽・歌唱などの指導、補佐によるボランティア活動。抹茶・煎茶・男の料理教室・昔あそびの伝承などによるボランティア活動。

○地域ふれあい部会

人形劇・マジック・銭太鼓などで地域のイベントへの参加、諸々の施設への慰問などのボランティア活動。その他スポーツなどで地域の人々の健康づくりや仲間づくりなどの活動。

○外国人支援、交流部会

神戸在住の外国人への日本語指導・日常生活の相談相手・留学生との交流会・募金活動などのボランティア活動。

○くらしの環境調査部会

自然環境の保全に関する諸々のボランティア活動・有機肥料との取り組み、PR・老人家庭への庭木などの剪定ボランティア活動。

環境問題の調査、報告の作成、冊子の発行など。

○情報部会

“わ”の活動の内外へのPR、外部ボランティアグループのミニコミ紙発行の手伝いなどの活動。

○福祉部会

身障者を病院や施設へ送迎するカーボランティア、養護施設内での介助・車椅子などでの外出介助、老人住宅訪問・話し相手・買い物の手助け、養護学校生徒のキャンプ介助などの活動。

○地域活動地区部会

それぞれの地区(各区単位)のボランティアセンターからの依頼や、その地域特有のボランティア活動。例えば垂水区で行なっている舞子駅周辺の清掃や淡路へのバス乗り場案内、須磨区で行なっている海水浴場の清掃活動、長田区で行なった外国人老人の識字教室への送迎。西区で行なっている難聴者へのワープ指導など地域に密着したボランティア活動を、上に挙げた各部会と連携しながら、部会を縦系、地域を横系にして、両方に所属して夫々の持味を活かした活動をしています。◆

“わ”情報ぎやらりー から

新米ゴスペラーダとして

神戸市看護大学生 湯原 簿平

私は現在ゴスペルに参加しているものの、実はゴスペルをやりだしたのはつい最近の10月頃です。だから観客を目の前にして歌ったのは、学校祭くらいしかありません。そのときも緊張して手の震えが止まらなくなってこまりました。しかし今回は大きなホールでたくさんの観客を前にしかも、本格的に活動されている神戸マス・クワイヤーの人たちと一緒に歌うということで、いやがおうでも緊張が高まりました。私は当日、金髪（ほとんど白ですが）で、しかも看護大では唯一の男なので、かなり目立ったと思います。皆さんから見ていて、私の緊張が伝わったでしょうか。

今回のイベントに参加して一番感じたことは、みんなと一緒に歌うほど「歌って楽しくなるなあ！」ということです。私たちのゴスペルサークルでは、最大集まっても15人くらいが限界です。たしかにそれでも、歌っているととても楽しいのですが、やはり今回は、言葉は悪いですが率直に“ぶっ飛んだ”という言葉がぴたりきます。神戸マス・クワイヤーの方の迫力に後押しされて、私も普段以上に歌えたと思います。でもなによりも、歌っていると楽しくて、今ここにいるみんなと心をつなげて歌っているのだと、妙に一体感を感じました。

それにしても、スポットライトって熱いものですね。緊張していることや動いていることと関係しているのですが、ステージにいる間中、汗がひっきりなしに落ちてきました。Tシャツ一枚でも充分だったかもしれません。Tシャツといえば、神戸

マス・クワイヤーの方たちの格好良かったです。黒をベースに、赤と白が入っていて、みんなそろって着ておられると迫力があります。私服できていた私たちは、すこし場違いな感じさえありました。今度みんなに提案して、あんなかっこいいTシャツでピシッとそろえたいです。

今回招いて下さった“わ”の皆様、本当にありがとうございました。こんな貴重な経験をさせてもらっただけでなく、ボランティアで運営や会場準備など完璧にこなしておられて、感謝の気持ちでいっぱいです。しかし、印象的だったのは皆さんの顔です。それぞれの人が一体となってイベントを盛り上げようと頑張っておられるせいか、とても生き生きとしておられて、私たち以上にパワーを感じました。年齢をとったからといって誰かにまかせっきりなどという雰囲気はまるでなく、ここはちょっとやってやろうかい！！といういきおいがあり、安心して身をまかせてしまいました。余談になりますが、ひとり暮らしをしていると、どうしても食事が貧相になってしまいます。あの味のしつかりとしみ込んだ、おでんはまさに感動ものでした。家に帰ってレトルトカレーを食べながら、しみじみと感えてしまいました。この経験は、きっとわたしにとってプラスになると思います。本当にありがとうございました。



“わ”情報ぎやらりー から

「1000人のゴスペル大合唱」のイベントを終えて

実行委員長 中島 洋吉

この催しを実施するまでの間、多くの時間を割いて準備をして頂いた実行委員の方々、会場の飾り付けに貴重な手作りの作品で参画して頂いた方々、前日から「イベント」に必要な調理に協力頂いた方々、当日の運営に参画して頂いた方々等多くの会員の皆さんに支えられて実施した今回の催しは、参加者の多くの方に喜んで貰えたと自負しております。参画して頂いた多くの会員の皆様、この企画の実現のためにご協力頂いたこうべ市民振興協会、神戸市シルバーカレッジ、関係役所の皆様本当に有難うございました。

当日、悪天候の中、参加して頂いた方々、そして全員が音楽のリズムに酔って手を叩き、足を踏鳴らし、ハンカチを振って全身で楽しみを表現されている様子を拝見して、この企画を実行して本当に良かったと思っています。

全ての準備を終えて、当日の朝自覚めたときは曇り空ながら雨は降っていませんでした。出かける頃になってポツポツと降り出した雨が、カレッジに着く頃には雪に変わってました。きょうに限ってこのような天気、と落胆しましたが、「ホワイトクリスマス」ならぬ「ホワイトゴスペル」もまた良きかなと腹を決めて来場者を待ちました。11時30分開催の「もいちど出会えてありがとう」も予定時刻になっているのに招待した人の出足が悪い。きょうは最悪と思っていたら、予定の時間を30分過ぎた頃から大勢の人がぞくぞくと来られ先ずは一安心。

隣の教室でおこなっていた米国映画「天使にラブソングを…Ⅱ」のビデオ上映も、

当初少なかった参観者が次第に増えて会場一杯となり、映画館より盛況の状態になってこれも一安心。最も心配した「ゴスペル」会場も悪天候に関わらずたくさんの人に来て頂き最終的には600人を超える参加者となり、逆に天候が良かったら多数の人が会場に入り切れなかったのではと安堵もしました。“ゴスペル=福音”、やはり神様が助けて下さったのだと、日頃信仰心の薄い人間が神様に感謝した一日でした。

昨年の5月頃神戸市の「神戸21世紀・復興記念事業」事務局から、グループ“わ”もイベントを計画して参加して欲しいとの要請があり、どのようなイベントで参加しようかとスタッフで検討を重ねる過程で、ゴスペル合唱会をやってはとの意見が出されました。当初はゴスペルのことが良く分からず、あまり乗り気ではなかったのですが、勉強をしていく内に、多くの市民があの大震災による被災の苦しみを克服し明日への希望に繋ぐ復興への努力をしている姿が、長い奴隷制度の苦しみ・差別の中で遠い故国アフリカを偲び、明日への希望と生きる意志を込めてアフロ・アメリカンの人たちが神に祈り歌ってきた「ゴスペル」と何か通じるものを感じ、鎮魂と明日への希望に燃えて翔ていることを表すイベントはこれしかない、今回の企画を決定しました。これからも多くの方が参加できる催しを計画しグループ“わ”の結束と存在意義を高めて参りたいと思っています。ご協力下さい。◆

グループ“わ” つうしん

グループ
わ
つうしん

『再び学んで・他のために』

私たちシルバーカレッジ卒業生は三年間親しんだ学校と仲間を基点として、学習の成果を再び社会へ還元することを目的に、一九九七年十月「神戸市シルバーカレッジ・社会還元センター」（愛称・グループ“わ”）を設立しました。高齢社会の担い手として、有意義な社会還元活動を実践するボランティア組織です。

その組織と主な活動内容は

会員総数は一期生から五期生を合わせ七四九名で、卒業生が自主的に運営をしています。事務局は当カレッジ内の二階交流サロンに設けられています。（次ページ参照）

福祉部会・国際部会・環境部会・文化部会・いきがい部会の五つの部会を縦系に、市内九区の地区のグループ活動を横系として、それぞれの持ち味を生かしたボランティア活動を行っています。

また、本部活動としてシルバーカレッジの諸行事のサポート活動・各種イベントの主催、支援活動を積極的に行っています。

参考までに各期のコース、専攻別の加入者数を下に掲げます。

神戸市シルバーカレッジ社会還元センターグループ“わ”登録者数 2001・5・7現在

期 \ コース	福祉	国際	生環	美工	音文	園芸	食文	合計	男	女
1	55	25	35	13	11	1	9	149	78	71
2	23	30	17	4	17	3	9	103	52	51
3	52	33	20	9	18	1	9	142	67	75
4	50	23	55	3	12	23	10	176	97	79
5	27	39	33	7	18	28	27	179	110	69
合計	207	150	160	36	76	56	64	749	404	345

グループ“わ”販売品について

販売日 毎週 火曜日と金曜日
販売時間帯 午前十時～午後四時まで
場所 カレッジ・二階の
ふれあいコーナーグループ“わ”

販売品

校章バッジ 四〇〇円

校章マークつき半袖ポロシャツ 二、七〇〇円

校章マーク入りアルバム 二、〇〇〇円

「福田川の川辺を歩こう」冊子 五〇〇円

環境用語集 三〇〇円

現在は右のものを取り扱っていますので、**わ**の活動資金の一助として諸兄諸姉のご協力をお願いします。

今後ともこの欄にご注目下さい。
【広報部】

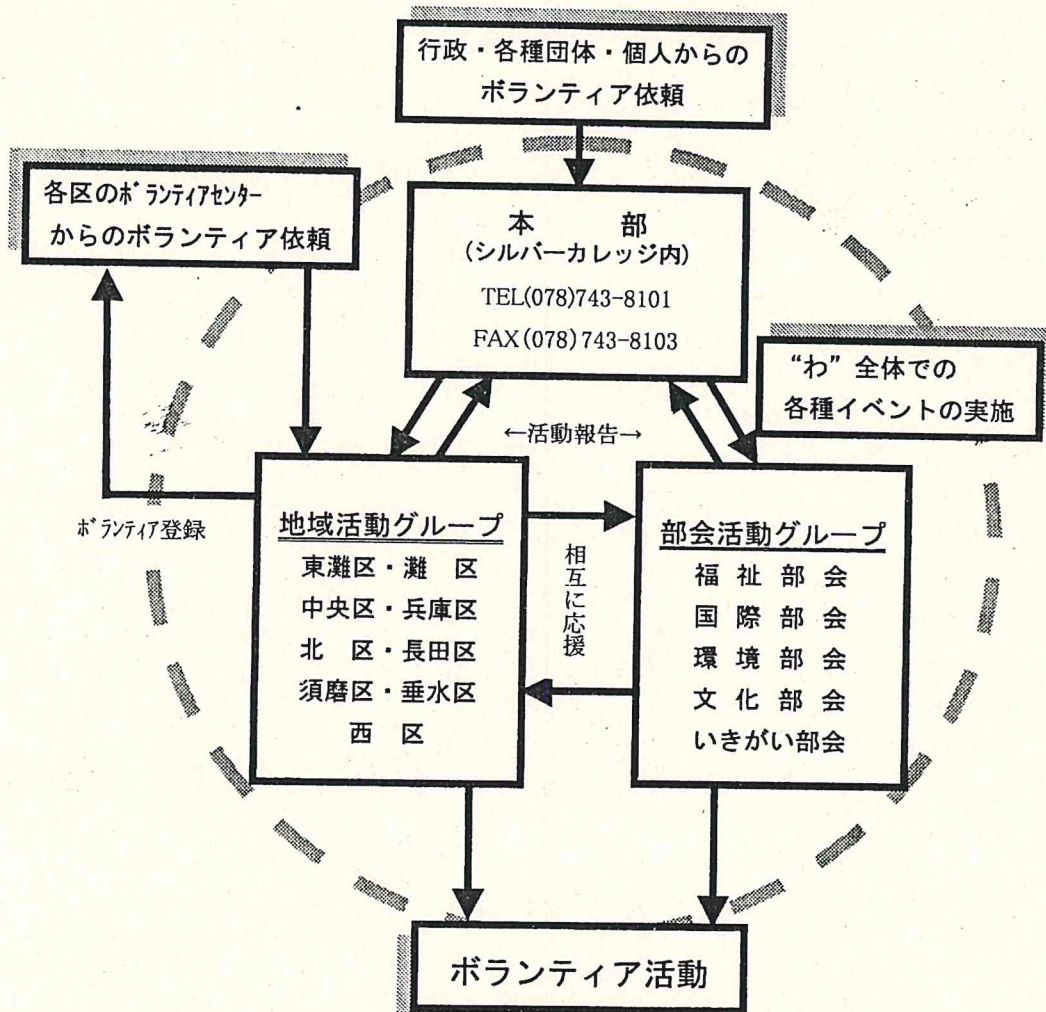


“わ” つうしん

卒業生によるボランティア活動
神戸市シルバーカレッジ 社会還元センター
グループ

“わ” つうしん

TEL(078)743-8101
FAX(078)743-8103
グループ“わ” 広報部



新しい組織・新しいメンバーで
更に充実をした活動へ！

各区のボランティアセンターからの依頼内容によっては、部会活動グループの応援を得て幅広い活動に対応します。

部会の主な活動分野

- 福祉部会 : 外出の介助や住宅訪問や施設での簡単な介助など、福祉分野のグループです。
- 国際部会 : 神戸市在住外国人への日常生活支援や国際交流などを行うグループです。
- 環境部会 : 自然環境保全や庭木剪定などの活動を行うグループです。
- 文化部会 : 昔遊びなど生活文化の伝承や人形劇、コーラス、習字、囲碁などの趣味・特技で、施設へ慰問などの活動を行うグループです。
- いきがい部会 : グランドゴルフ、ペタンク、フォークダンス等、だれでも親しめるスポーツや趣味の集まりの中で、高齢者の健康づくりのお手伝い活動をするグループです。

“わ” つうしんから

卒業生によるボランティア活動
神戸市灘PA-カレッジ 社会還元センター

グループ

“わ” つうしん

TEL (078) 743-8101
FAX (078) 743-8103
グループ“わ” 広報部

竹炭焼き体験

グループ“わ”の環境保全活動から出される残材リサイクルの面から竹炭に関心を持ち、昨年より本部や環境部会の園芸・植木剪定グループ「花桃会」の人達で施設の見学などを行いながら研究をしていたところへ、今回学校当局より竹炭製作の要請があり、竹割から炭焼き製品化までの体験をすることが出来ました。

炭焼き炉は軽量(350kg)コンパクトで着火後は自然燃焼方式の炉をリースで借用し、原材料は震災後一月十七日に東遊園地で行われる鎮魂祭で使用されるローソク立ての竹を再利用し、作業は七月十七日から七日間、本部役員、木工グループ、花桃会、ピオトープ、ケナフのグループの人達が中心に在学生の方々が参加協力をいただき、初期の目標通りの竹炭が見事にでき

上がりました。

竹割り作業から製品の袋詰めに至るまで様々な工程のノウハウを苦勞しながら習得しました。

今後継続して竹炭焼きを実施するための炉の設置等に付いては、在学生の方々を含めた多くの意見を聞いて学校当局と折衝していきます。

完成した製品は、七月二十八日(土)に行われた、しあわせの村の村祭り販売し好評を得ました。
(←製品に添付の資料)

竹炭の利用方法

ごはんを炊くとき
炊飯器に入れて一緒に炊くとおいしく炊けます。
3カップに (1~2片)くらい

米びつに入れる
米びつに入れておくとお米が香ばしく炊けます。お米もおいしくなりますよ。
(3~4片)くらい

冷蔵庫や下駄箱・トイレに入れる
脱臭や、カビ防止などに効果的です。
(6~7片)くらい

まず、煮沸した水でよく洗ってからお使い下さい。

水に入れる
お風呂や洗面所、トイレなどに一握り入れておくと、お湯がさらさらになります。
水1リットルに (3~4片)くらい

お風呂に入れる
お風呂に入れておくと、お湯がさらさらになります。お湯も香ばしくなります。
(20~30片)くらい

活け花・香燻具に入れる
お香がさらさらと香ります。
(1~2片)くらい

☆ その他、いろいろなところでお試しください。
☆ 時々汚れを落とすように煮沸乾燥させると何度でも使えます。
☆ 最後は砕いて、鉢底や、土に混ぜると土壌改良になります。

まだ残りがありますので、一袋(百グラム)三百円でグループ“わ”の事務局とカレッジ事務局にて販売しております。ご希望の方はお越し下さい。



平成十三年度

グループ“わ”のイベントについて

高齢者を対象に一般にも呼びかけてニュースポーツの大会を行う案が決定しました。

名称 「いきいきヘルシー」
スポーツの集い

日時 来年三月三〇日(土)

場所 しあわせの村内及びシルバークレッジ

内容 ニュースポーツと講演

を予定しておりますが、今後詳細については実行委員会で検討し計画を企てていきますので、決定しだい皆様方にお知らせします。
(編集・今井)



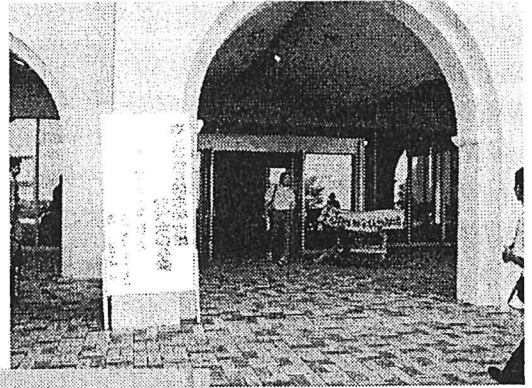
記事・豊村栄一

卒業生によるボランティア活動
神戸市シルバークレッジ 社会還元センター
グループ

“わ” つうしん

TEL (078) 743-8101
FAX (078) 743-8103
グループ“わ” 広報部

全国雑木林会議で
協力ボランティア
九月二十三日（日）
しあわせの村シルバークレッジの施設を利用して、里山についての全国雑木林会議が行われました。
われわれグループ“わ”は同会より依頼を受け、二十二日（土）と二十三日の両日に亘って会場の設営準備、跡片付

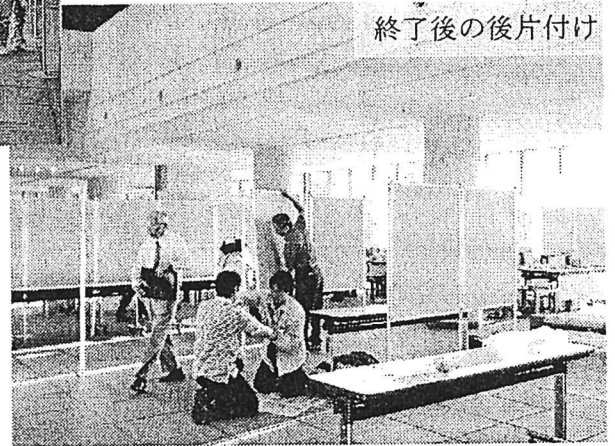


→ コーヒーと緑茶の販売 ↓

け、舞台の一字吊り、照明・音響操作、バス停よりカレッジ迄の道案内道標の取付け、接客、場内整理、コーヒーと緑茶の販売を行いました。
(記事・大坪英二)



終了後の後片付け



お知らせ

第五・六回シルバークレッジ パソコン講座・基礎・初級コースの申し込み受け付けを十一月六日～十一月十三日に行います。
お申し込み下さい。

“わ”事務局

グループ “わ” の説明会

副代表 豊村栄一

平成十四年一月九日、午前中の貴重な授業時間間にカレッジホールにおいて活動実態について全三年生を対象に説明する機会を得て発表いたしました。

最初に中島代表から “わ” の概要について説明しました。

日頃から “わ” とは何か、どんな事をしていのか、どんな活動内容なのか、よくわからないと言う声を耳にしております。

発端は平成九年七月二十二日卒業生の自主的な活動グループとして、シルバークレッジの建学の精神である “再び学んで他のために” に則って誕生しました。現在の会員は一期生から五期生までの有志（七二五名）が所属しております。

組織としては地域活動グループと部会活動グループがあります。 “わ” に加入すると全員が地域（各区）活動グループに自動的に所属することになります。活動は各区のボランティアセンターからの要請により、行っております。部会活動グループは各人が在学中に経験したボランティア、特技、趣味を活かした活動を引き続き行っています。福祉、国際、環境、文化、いきがいの五部会に登録して（重複も可）いた

だきます。

要請の内容により、地域と部会とが、うまく連携して行うボランティアが沢山ありますので、これをうまくマッチさせて活動を進めているところです。

「皆様方の参画をお願い致します。」

次に部会長及び地区委員長が出席者全員に配布したグループ “わ” の活動紹介を基に説明と勧誘を行いました。

福祉部会 地味な活動ですが楽しい事もある、言葉より実行、まず参加して欲しい。国際部会 現四つのグループ以外、新しい活動も大歓迎です。

環境部会 楽しみながらボランティア活動が出来ます。

文化部会 在学中のクラブ活動の延長が多い、無理せず、気楽にやりましょう。

いきがい部会 スポーツを通じ、地域の皆さんと楽しみながら活動しましょう。

東灘区 2 メンバーが少ないが、力を合わせて、活動の輪を広げたい。

灘 区 2 個人での活動が多いが、更に活発な活動を進めたい。
中央区 2 月に一〜二度でOK、時間と

労力の提供をお願いします。

兵庫区 2 「老後を楽しく」をモットーにボランティアとリクリエーションを進めていきます。

北区 2 最も会員数が多い区です、楽しみ半分、ボランティア半分で活動しています。

長田区 2 多くの人に参加してもらい活動の輪を広げたい。

須磨区 2 現活動を詳しく説明し、加入の要請を行った。

垂水区 2 垂水会（親睦）があるが、“わ”への加入を待っています。

西区 2 部会での個人活動が多いが、区として目玉となる活動を模索中。



本部事務局よりお願い。

- 一、入会手続きを卒業日までに済ませて戴きたい。
- 二、疑問・質問は毎週火、金に事務担当が居りますので、お越しく下さい。
- 三、「グループ “わ” の活動紹介」は “わ” の事務局にあります。ご入用の方はご自由に持ち帰って下さい。

卒業生によるボランティア活動

グループ“わ”通信

いきいきヘルシースポーツ開催

きたる三月三十一日(日)に首記のスポーツ大会をグループ“わ”の主催で行います。



午前中は元プロテニスプレイヤーの沢松奈生子の講演・午後はニュースポーツを体験していただく計画をしております。

くわしくは別紙チラシをカレッジ事務局前と二階事務局に置いてありますのでご自由にお取り下さい。なおご家族、友人、知人をお誘いの上多数の方々のご来場をお待ち致しております。

講演会

講師 沢松奈生子

「ウインブルドンの風に誘われて」

日時 二〇〇二年三月三十一日(日)

十時開場

会場 しあわせの村内

シルバーカレッジホール

入場は無料です。

スポーツ大会(同時開催)

日時 二〇〇二年三月三十一日(日)

午前～午後

会場 しあわせの村内

開催種目

◆グラウンドゴルフ

十時～十六時(午後は競技会)

場所・芝生広場の北面

◆バウンドテニス・シャッフルボード・

フロツカー・卓球・ペタンク

十三時～十六時

場所・シルバーカレッジ

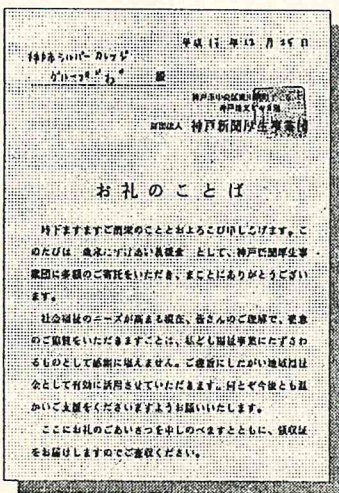
歳末たすけあい

募金活動に御協力感謝

このたび“わ”広報部の発案により、シルバーカレッジ年間行事予定表を組み込んだ、二〇〇二年カレンダーをパソコンで作成し在校生を対象に募金の協力をお願いしました。募金活動の日数が短く心配しましたが、おかげさまで五万円を超える御協力を頂きました。

なお淨財は十二月二五日・(財)神戸新聞社更生事業団へ持参致しました。

在校生を初め多くの皆様方に多大な御協力を戴き厚くお礼申し上げます。有難うございました。



お願い!

六期生で“わ”への未加入の方は早急に手続きをお済ませ下さい。